

令和元年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームこぶなと

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500155		
法人名	特定非営利活動法人ともにあゆむ会		
事業所名	グループホームこぶなと		
所在地	岩手県花巻市下小舟渡262-1		
自己評価作成日	令和1年5月28日	評価結果市町村受理日	令和1年8月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームこぶなとは、イギリス海岸に近く、散歩コースには神社もあり自然の移り変わりを感じながら生活できる地域に立地しています。  
 「笑う ほめる de 元気になる」を理念とし日々の生活の中で、ほめること笑いを引き出すことを、共有の目標としています。ユニット目標は「あの手 この手で体力アップ」とし、平均年齢92才の体力維持、アップに取り組み日常的な運動や個別の機能訓練を毎日の生活の中に取り入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JigyosyoCd=0390500155-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kajokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JigyosyoCd=0390500155-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内の国道4号線と北上川の間に住宅街に立地し、大型スーパーや飲食店も近く、玄関側の道路を挟んだ向かい側には、パチンコ店の広い駐車場もある。医療機関にも恵まれ、自治区公民館が隣接され、近隣にある保育園との交流も定例化している。明るい施設づくりを目指した建物は、採光も良く、重度化した利用者が、共有スペースから車椅子で屋外に出れるウッドデッキが敷設されている。職員全員で理念を毎朝の引継時に唱和し、利用者の笑いと元気を出す声掛けを励行している。月1回の手作りの日や毎日の衣類やタオルたたみ作業、機能訓練等の積み重ねが利用者の元気を維持しており、関係機関の協力のもと、看取り介護の体制も整えているなど、事業所が丸となって良質な介護サービスの提供に努めている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年7月18日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホームこぶなと

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を毎日おこなっている。	事業所の理念は、毎日朝の申し送り時、勤務者全員で唱和し、利用者支援の基本として確認するようにしている。また、理念に基づく介護サービスを着実に実践するため、事業所目標を毎年度に設定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に参加したり、近くの神社の祭り際には、子供みこしにきてもらい交流している。	小舟渡地区の自治会に加入しており、回覧板の回覧は定期的に行っている。近隣にあるこのみ保育園との交流事業は定例化され、今月末には約20名の園児がスイカ割り会に来所する。また、定期的に踊りや歌のボランティアが2組来所されるなど、地域との交流を積極的に取り入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員とのつながりの中で、認知症の人の支援の方法などの情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。 利用者の状況、ヒヤリハットの報告を行っている。	運営推進会議は、市役所、地域包括支援センター、民生委員等で構成し、利用者の状況やヒヤリハット、関連行事の報告、或いは、警察や消防等の関係機関からの話題提供をいただくこともある。今月はスイカ割り行事に合わせ開催予定である。	今後は、自治会役員も会議構成員に要請し、地域住民が参加できるイベントの開催企画や災害発生時の支援体制づくりなど、地域と連携を密にした事業所運営に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者に出席いただいている。	事業所を対象とした市の集団指導が毎年開催され、出席している。また、事業所毎に市の担当者が決まっており、必要時連絡をとりやすい仕組みが出来ている。要介護認定申請時には、ケアマネジャーが市役所窓口で代行申請を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の施錠はせず、夜勤者1人体制では施錠している。具体的な身体拘束事例は最近はない。外部研修等での研修者は、スタッフミーティングで研修内容を復命し、欠席者が後日会議録や資料で確認するなど、身体拘束をしないケアの情報共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士確認し、防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間で共有し、必要に応じ活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス内容を細かく説明し利用者、家族に十分理解いただいた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議などで、家族の意見や要望を聞く機会を設け、ケアに生かしている。	運営に関し利用者からの意見は殆どなく、家族からも個々の利用者についての要望はその都度出されるが、運営に関する意見は、口頭や意見箱でも出されることは殆どない。面会時や電話で家族から話された内容は、「申送りノート」に記載し、スタッフ全員で共有して良好な介護に繋げるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に施設をまわり、利用者、職員の様子を把握している。月に1度のスタッフ会議で職員の要望、意見を聞いている。	毎月1回のスタッフミーティングを開催しているが、その中から法人事業所での同一献立について、利用者の状態や好みに合わせた献立とした際の提案に基づき、夫々の事業所で献立を作成する方式に改めるなど、職員からの提案を事業所運営に取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の事情などの変化に合わせ、勤務時間の変更や休みの交代など柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら、介護福祉士の試験に挑戦したり、個々のスキル向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会のブロック会議に出席している。 また、交換研修などで他施設との情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話をし要望等を可能な限り受け入れ、本人の不安を少しでもなくすよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望は必ず確認し、可能な限り希望に沿う様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前のアセスメントに重点を置いている。本人、家族の話しから必要なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に対等な関係性を保ち、家族のように生活を共にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、居室などで家族の時間を大切にしてもらっている。また、家族との情報交換は常に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、会話の中に本人と関係性のある地名や人物の名前を思い出してもらっている。	利用者の高齢化や重度化により、職場の同僚や友人が訪ねてきたり、買い物の際に行きつけの店員から声をかけられる機会が殆どなくなったが、唯一病院の待合室で知人と話をすることはある。自宅への外出は、お盆や正月に家族の協力が得られる利用者に限られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や態度などから利用者同士の関係性を把握し、職員が間に入り声掛けをするなど孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが中断しても、必要があれば家族からの相談を受けたり様子を尋ねるなどの支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いを、日常の会話どなから把握するよう努めている。困難な場合は、家族と相談したり本人本位に検討している。	殆どの利用者とは、会話で意思疎通できており、会話時の反応や声の調子、表情等で本人の思いを察するようにしている。七夕飾りの短冊に思いを書いたり、話したい話題に触れると、いろいろと話し出す利用者もあり、重要な内容は記録に記載し職員間での情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のサービス利用等の記録や事前調査、会話などよりこれまでの生活の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別訓練や製作活動などより個々の状態を把握し利用者に合った生活ができるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で課題を話し合い、介護計画作成の見直しに活かしている。担当者会議では家族の意見や希望なども聞き反映させている。	原則、利用者毎に担当職員がおり、主任が全員を把握している。介護計画の見直し時期には、スタッフミーティングの際に検討し、モニタリングは介護支援専門員が行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、スタッフノートの利用、申し送りなどから日々の様子の変化など職員間での情報の共有を図り、見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、会話などより本人や家族の意見、希望を把握し個々の状態に寄り添ったサービスを提供できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春には近くに桜を見に行ったり、神社の祭りの際には子供みこしに来てもらうなど、地域との交流を通じて楽しみを持てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎回受診の際は、情報提供書を作成し不安なく受診できるよう取り組んでいる。また、家族が同行できない時は職員対応にて受診するなどして支援している。	事業所周辺には多くの医療機関があり、利用者の主治医も夫々に異なっている。定期受診の同行は、原則、家族対応としている。最近、歯科医の協力で健診を実施した。訪問歯科診療については、現在意向調査中にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化、日常での気づきを看護師に相談し指示を受けている。申し送り、スタッフノートにて情報共有を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族から様子を聞いたり、または病院への伺い、施設での様子を伝えるなど、情報交換に努め安心して治療できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議にて家族の意向を聞き、ケアマネージャー、職員間含め、方針の共有を図っている。当施設で対応、取り組みが出来ること等を伝えている。	3～4年前に終末期支援のためのマニュアルを作成し、家族の意向に応じて看取り介護を行える体制にある。特別養護老人ホームへの入所が可能になっても、事業所での最期を希望されたご家族もあった。医療機関によっては、特定疾病等のみでの対応との制約もあるが、可能な範囲での支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習会や誤嚥の対応などの勉強会を通し応急手当や、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の水害訓練の参加や消防署を呼んでの防災訓練など年に数回実施、利用者も参加し防災意識を高めている。	災害の避難訓練は、職員1人体制を想定して実施している。事業所は北上川沿いにあり、指定の避難場所はあるが、避難先での利用者処遇の課題もあり、現実的な避難場所や職員以外の地域の協力体制づくりなどについて、現在検討中にある。	当該事業所は、市のハザードマップで浸水地域に指定されていることから、洪水等の災害への対応を完備するため、地域からの協力体制の整備や避難経路、避難場所等について、早期に結論を得ることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定時でのトイレ誘導の際直接「トイレへいきましょう」ではなく「少し歩きましょう」など周りや本人への配慮をしている。	ケアの場面では、上手な声掛け誘導が日常的に行われている。利用者への声掛けは「さん」付けで行っている。異性介助を嫌がる利用者はいないが、場合によっては、すぐに介助者を変更する等、臨機応変に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「今日何かしたい？」の声掛けや出来事(ニュース)、季節の花、天気等を話題にして会話を楽しく心に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や天気、好きな事、できる事を把握して本人のペースに合わせて無理なく参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の調整に注意し、着慣れている物を着用していただく。美容師にきてもらいカットやカラーをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回手作りの日を設定し、食材の準備(野菜切り、皮むきなど)を利用者と職員と一緒に、楽しく食事をし、片付け等も行っている。	手作り料理の日は、利用者の楽しみの機会であり、食欲増進の一助にもなっている。誕生日に好物の提供やひな祭り、敬老会等には行事食も提供されている。外食出来る店も近隣にはあるが、最近では利用者の高齢化により出かける機会が減っている。食後の歯磨きが励行され、口腔ケアは行き届いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調整された食事量を提供し、管理し記録している 体重測定も定期的を実施している。高カロリー提供者も同様に管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 基本本人に行ってもらうが、仕上げは職員が介助している。また、歯磨きができない方には口腔ケアガーゼを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えが出来る方は、都度対応している。その他の利用者は、定時誘導を行い利用者にあつた対応を心掛けている。	定時誘導や声掛けにより、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援している。排泄の後には、その都度、対応した職員がタブレットに入力している。夜間用のポータブルトイレやセンサーは、利用者の状態に応じて事業所で準備するなど、適切な排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送りを確認し、水分補給に気をくばり体を動かしたり、飲食の工夫に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に合った支援をしている	個々の体調に注意し入浴を楽しめる様心掛けている。	入浴は、利用者の状態に合わせて週2回から3回提供されている。入浴専門の派遣職員が主に介助しており、個々の身体状態に合わせて上手な入浴支援が出来ており、また、身体状態の継続的な観察も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は午睡をしてもらい、夜間は照明、物音、室温に気をつけるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に、薬が変更になった場合は、その後の変化に注意するよう細かく観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞たたみや食器拭き等、出来ることをしていたき生活している喜びを感じられるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、可能な限り外に出れるよう努めている。時には自宅に戻り家族との時間を大切にしている。	利用者の高齢化や筋力低下により、日常的な散歩の機会は減ってしまっているが、屋外デッキや建物の外で日光や風に当たる機会を設け、気分転換に努めている。今年、国鉄勤務歴がある利用者があり、SL列車の走行見学会を行うことが出来た。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が直接使う事は無いものの、必要な時には家族に伝えいつでも購入していただけるようにしている。苑が立て替えて購入することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の取次ぎやはがき等の購入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた小物や花などを飾りつけている。温度、湿度の調整や毎日の清掃など快適、清潔であるように努めている。ケガ等の防止の為、歩行スペースは常に広めに確保している。	共有スペースの各テーブルには、職員が持参したアジサイの花が飾られ、壁や棚には手作りの折り紙等で作った作品や季節の七夕が飾られている。共同空間の天井は高く、廊下にも天窓が設置され、事業所は全体的に明るい。快適な環境の中で、自宅から持参した手編みの座布団を椅子に敷いている利用者もいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後、テレビが観やすい位置への移動など心掛けています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくり休んでいただくように寝具の整理整頓に心掛けています。	各居室には、電動ベッドが備え付けられ、広いクローゼットに衣類や日用品が収納されている。窓枠手前の棚には、写真などの持ち込みの小物が飾られ、壁には家族の写真や感謝状等が貼られている。朝、ゆっくり居室で休んでから起床される利用者が数名いる。身体状態の低下により、事業所でエアマットを準備し床づれを予防している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で出来ていることを見つけて、それが継続できるように声掛け、見守りをしている。			